

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
解剖学 anatomy		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(栄養士資格必修)	栄養士養成課程限定
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
栄養士資格取得に必要な科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
栄養士資格必修				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
本庄 広大	非常勤講師室	授業終了後		授業中に指示します
授業の概要				
人体の構造と機能の基本を習得し、細胞やそれが集まって出来る大きな器官までの主な名前と働きを理解する。さらに、脳や内臓などの主要な構造と互いのつながりを覚え、主な疾患やその対策や対処の基礎を理解する。併せて栄養士の基本となる身体での栄養成分の利用について学習する。				
授業の目標				
①生体を取り巻いている環境は常に変化している事を認識することができるようにする。 ②生体を構成する細胞を取り巻く物理的、化学的、生物学的な環境の違いを分類することができるようにする。 ③生体機能における食品及び栄養素の関与や関連を認識することができるようにする。				
授業の方法				
授業は講義。学生は積極的に講義に参加するよう努力すること。				
学習の成果（学習成果）				
①栄養士資格を取得するうえで必要となる条件である「解剖学」に係る内容や働きについて具体的に解説することができる。 ②生体内の臓器の位置を具体的に正確に解説することができる。 ③生体内の各部位、細胞、器官までの主な名称と働きを正確に分類することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業の概要説明。			
第2回目	人体の概観について学習する。			
第3回目	骨格系の構造について学習する。			
第4回目	筋系の構造について学習する。			
第5回目	循環器系の構造について学習する。			
第6回目	呼吸器系の構造について学習する。			

第7回目	消化器系の構造について学習する。
第8回目	泌尿器系の構造について学習する。
第9回目	生殖器系の構造について学習する。
第10回目	神経系の構造について学習する。
第11回目	感覚器系の構造について学習する。
第12回目	内分泌系の構造について学習する。
第13回目	第2回目から12回目のまとめ。試験に向けた補足説明。
第14回目	第2回目から12回目のまとめ。試験に向けた補足説明。
第15回目	第2回目から12回目のまとめ。試験に向けた補足説明。
事前・事後学習	教科書を読み、補助資料に書き込む。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	①講義の目的・内容をしっかり理解し、積極的に参加する(S=90評価)。②メモやプリントを積極的に利用する(A=80評価)。③集中して講義に参加しないものは評価が低い(場合によりD評価となる可能性)。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	80%	①全出題項目が理解できている(S=90評価)。②重要な出題項目が理解できている(A=80評価)。③基本的な問題が理解できている(B=70評価、又はC=60評価)。
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

- 教科書 【管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 第4版】 岩堀修明 文光堂
- 補助資料 【ぬりえで学ぶヒトのからだ】 佐藤達夫 安田康晴 パーソン書房

履修上の留意点・ルール

時間の関係で授業では触れなかった疑問を自分で調べて、それでも分からないところを先生に質問すること。